

# 区民とともに進める だれもがでかけたくなるまちづくり

～ 「わかりやすい」「歩きやすい」「使いやすい」 アクセスルートの取組を進めます ～

## 現状・課題

- ◎ 建築物、交通機関、道路、公園等のバリアフリー化は着実に進展。
- 管理区分でそれぞれ個別の整備が行われ、施設間をつなぐ観点が不足。

- 利用者にとって使いにくい整備が行われている。
- バリアフリー整備の効果が十分に発揮されていない。

施設間の連続性を高める 一体的・計画的なバリアフリー化が必要



敷地側の点字ブロック  
管理境界  
道路側



この改札口の先には階段しかなく、エレベーターを利用したい場合は別の改札口にまわらなければならないが、駅構内の案内標示でわかりにくい。



## 更なる「外出しやすさ」に対する区民の期待

駅から公共施設へのルートに望むこと

- ・ 障害者 … 「案内板がわかりやすい」 57.1%
- ・ 子育て世代… 「歩道などが広くストレスなくすれ違える」 70.4%
- ・ 高齢者 … 「疲れたら途中で休憩できる」 57.1%

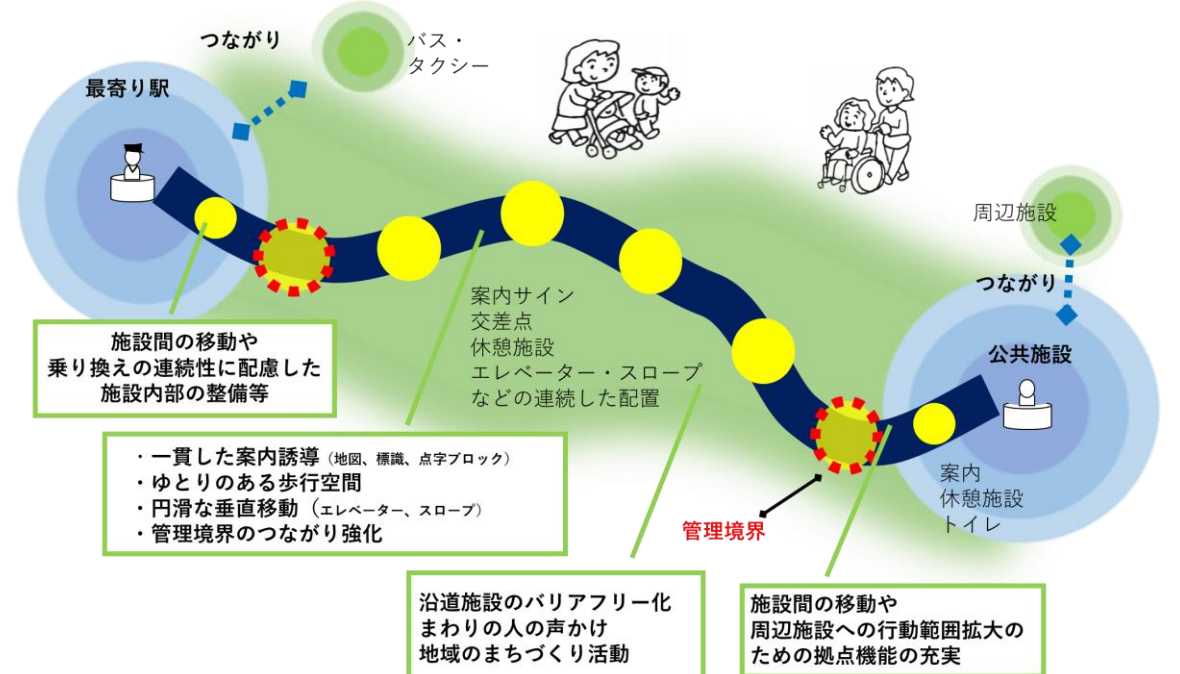
(平成29年 区役所来庁者によるシール投票から)

## 取組

関係者の共通理解のために

「公共施設へのアクセスルートユニバーサルデザインガイドライン」の作成  
外出環境の向上のために配慮すべき事項を具体的に示す手引書

関係者間の連携を強化しアクセスルートの連続性を確保



### 【効果・目標】

- ・ 各整備者や管理者に連続性を意識した整備等を促す。
- ↓
- ・ アクセスルートの連続性向上によって 高齢者、障害者、乳幼児連れが安心・快適に行動できるエリアが拡大する

### 【スケジュール】

- 30年度
  - ・ アクセスルート指定 (5 地区程度)
  - ・ 関係する施設への周知、改善等要請
  - ・ 区施設の改善方針の取りまとめ
  - ・ モデル事業 (1 地区) 改善計画策定
- 31年度
  - ・ モデル事業 整備等の実施